

国立大学の規模と範囲の経済性—トランスログモデルによる推定—

同志社大学大学院

菅原千織

報告要旨

本稿では、国立大学法人法により設立された国立大学法人 82 校の 2004 年度から 2006 年度の 3 年間のデータを対象に費用関数を推定し、規模と範囲の経済性を計測した。先行研究に対して 3 つの新たな試みを行った。1 つ目は、費用に関して従来の経常費用、それに資本コストを加えたもの、さらに付属病院の診療経費を考慮したものを導入したこと。3 つ目は、規模と範囲の経済性を計算するだけでなく、それが統計的に支持されるかどうかを Wald 検定によって検証していることである。この結果、国立大学の規模の経済性は大学院教育と研究活動においてのみ存在するが、範囲の経済性は統計的にも認められないという結果を得た。さらに、経常費用には削減の圧力が見られるものの、費用に資本コストを加えると費用増加の傾向が観察された。